

盛花源氏五十四帖圖繪



迹



品

通久頌



五
 交睛四方忘 喪僧以衆心
 踏似孤僧 風流三味末
 吟侶不堪 源平拙手落

而辰去日於金城北麓草庵

居士御瀨書



白雲山

予は元尾張小坂の王上病の
 草庵母人となり幼年の頃より
 松月堂大徳生花心持善美を
 習ふ事と所より給ひ来りて
 今見たりは此草庵と名年者ハ
 梅櫻裏の深林に松若の影のつ
 き正味知りて是を歌一初々
 昔頃の鳥花林の影りたる
 心故編一おま 圓徳の邊り

杜く業又隠し居りし中くは
 乃外所にあはれを固く諱めし由
 言とれ此のうら業筆をあるは
 正しきこといふ一つは是れ也
 除も七十四帖と詔歸しし業
 聖まきりて業を易かゝるは湯の
 郡談もて業の祀の古業をとも
 是の事よりあるは業の事なり
 之れは公にせんともあるは昨
 社中の

為り千一の候りも業人の
 かく利行しし詔し人母河原の女

大正三己卯書
 東郷重城の業於業尾記
 方角居 宗典



桐壺



空蝉



笏木



阿加

若紫



阿加

夕顔





紅葉賀



末摘花



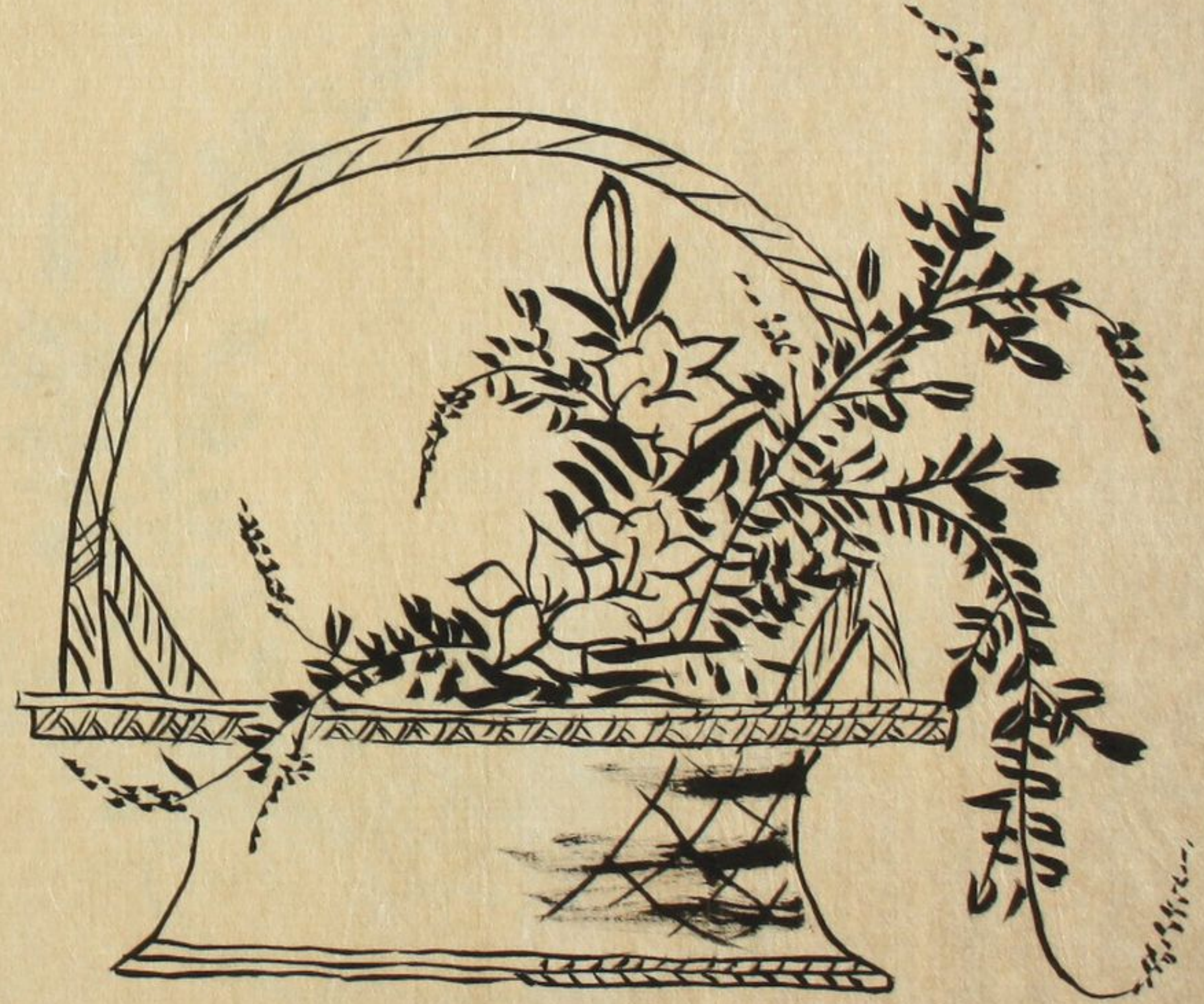
花

葵



花

宴





花散里



柳



明石



須磨





蓬生



濟揚



雨
繪
合



雨
明
尾





薄雲



松月



圖

少女



圖

朝顏



剛

初芳



剛

玉葛



胡
荽



胡
蝶



御幸

御幸



御幸

御幸



𠄎

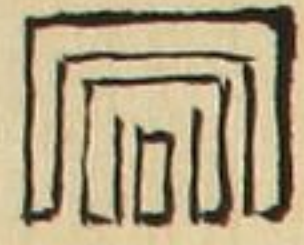
篝火



𠄎

蘭





真桂

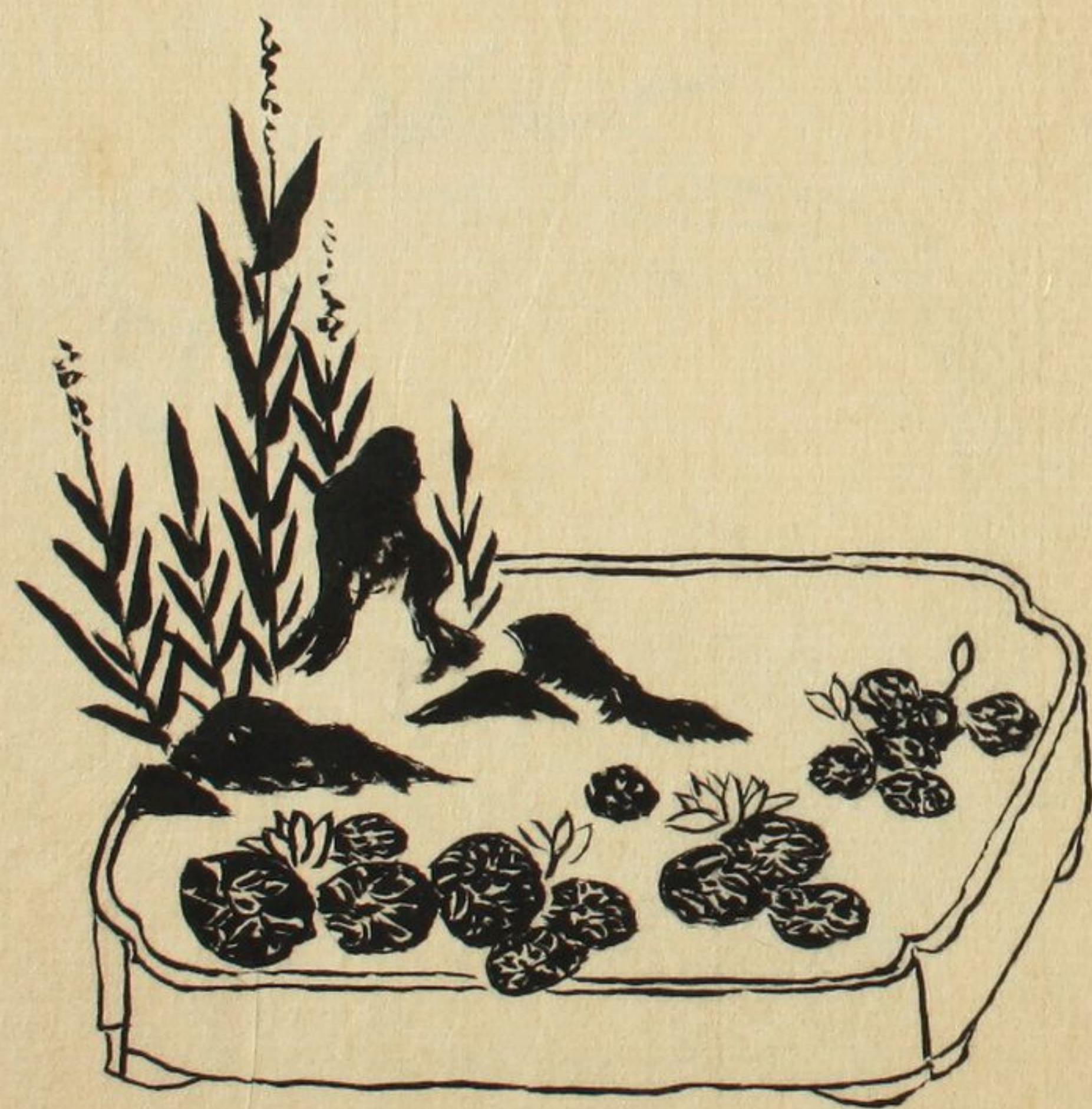


野分

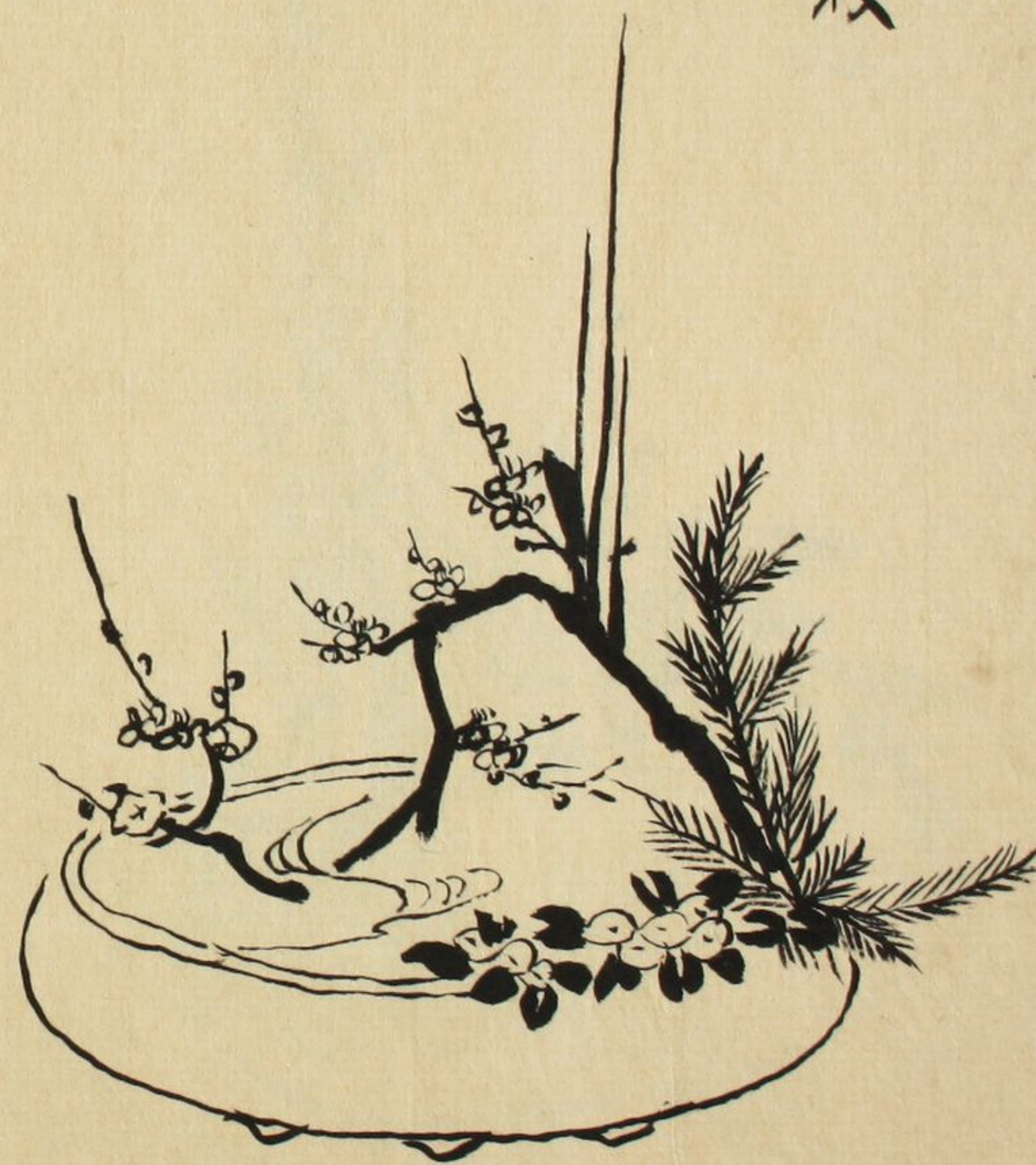




藤裏茶



梅枝



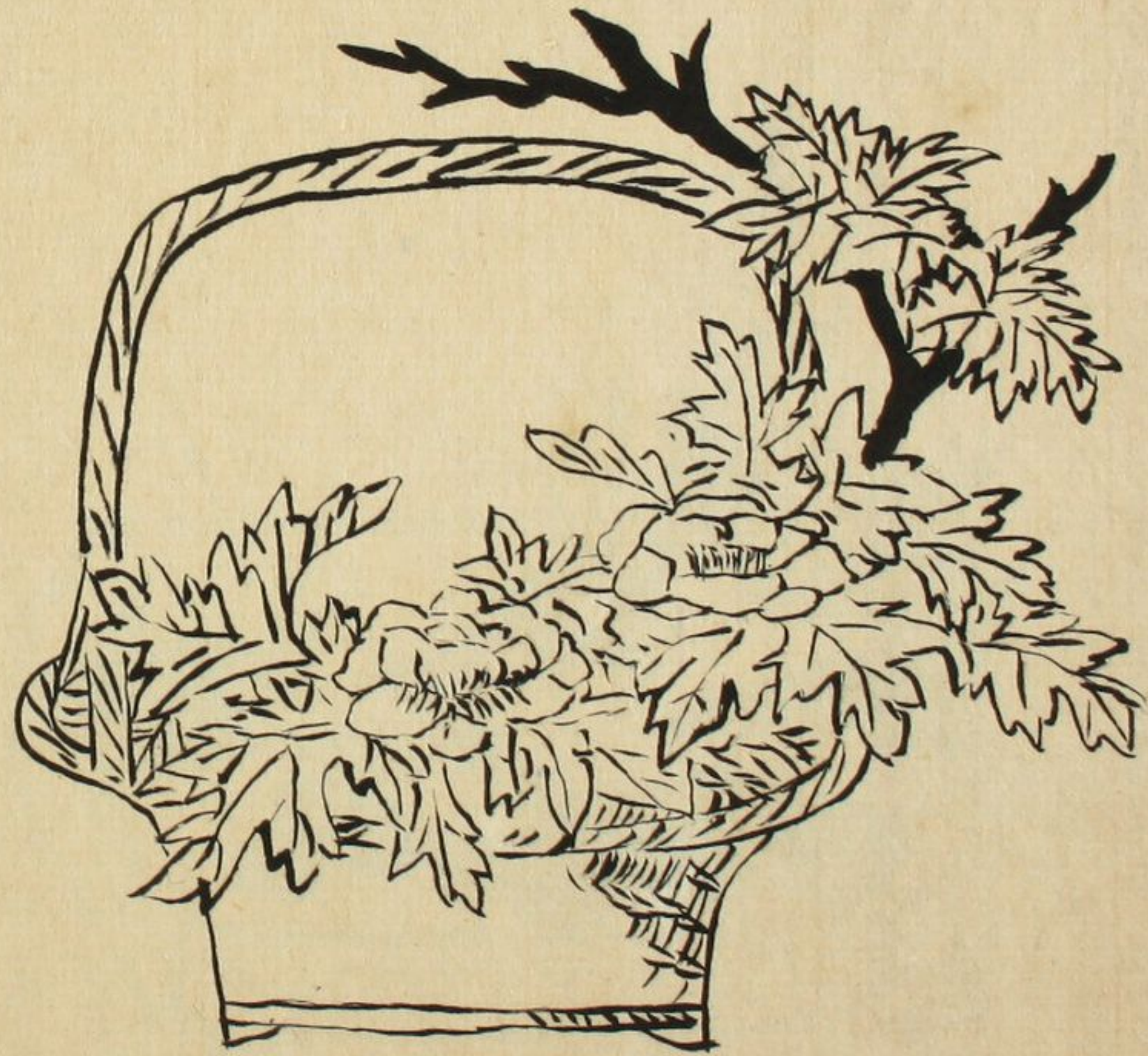
同

茗菜



同

茗菜





橫笛



柏木



雨

夕霧



鈴虫

鈴虫





幻



御法





紅梅



白宮





梅
娘



竹
川



圖
松角



圖
松本



扇

宿木



扇

早蕨



浮舟

浮舟



東展

東展

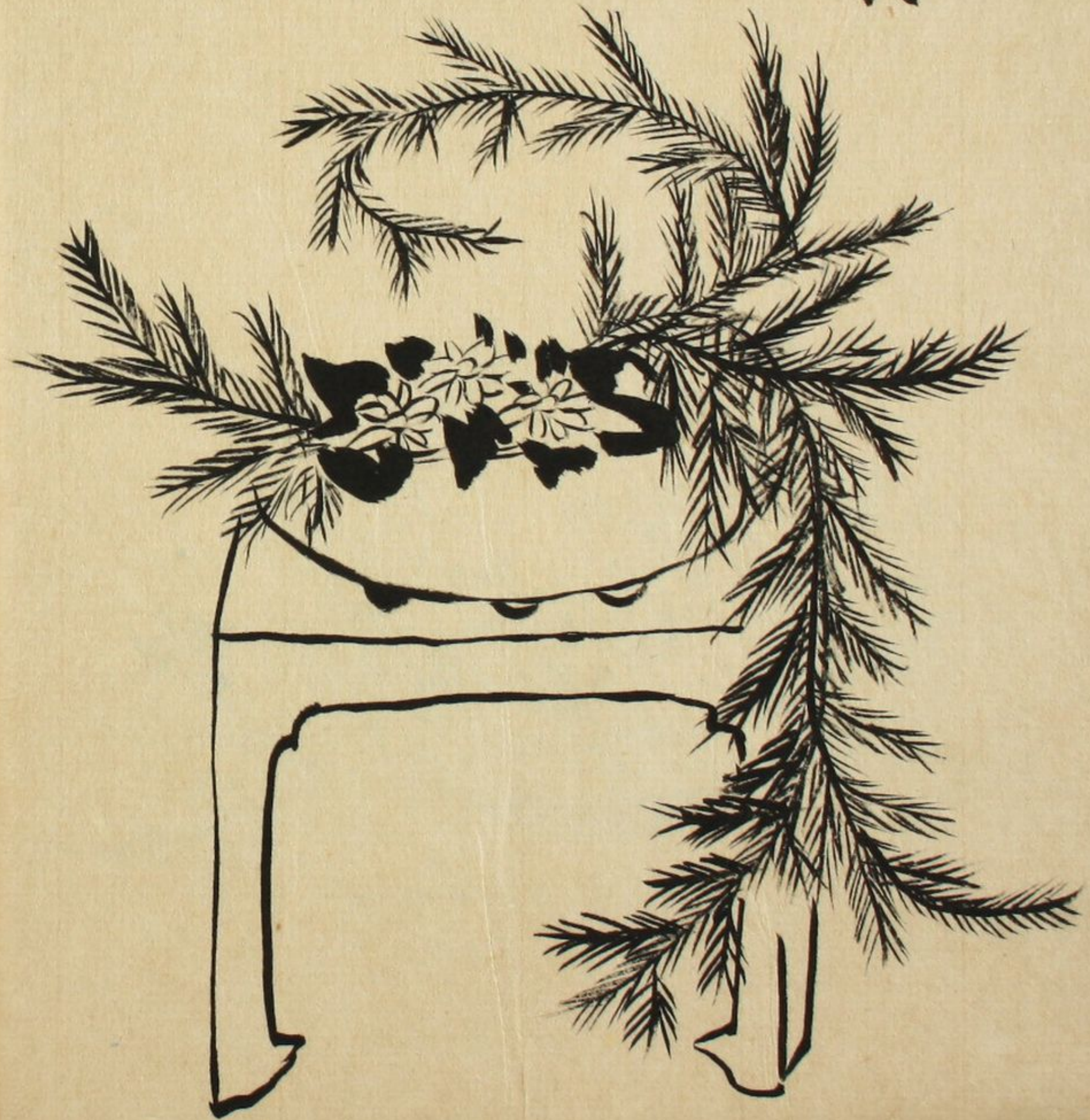




手習



蜻蛉



四
普濟橋



跋

方園居主人性溫厚法帖遍于德藝
而插花點茶彫刻為尤長編對既克
導後進及壯門生滿堂歛而移居于
東京臨 皇凡之隆運海濱蓮花寺
比帖以自後進演而出卷道十八冊
六書不謂忍矣主人守而比帖乞余
一言余不辭揮毫了術乃自幼及垂

癖有之為幸與揮毫相近吾其以道
法誇跋此帖讀直書曰多後書四埋
境而始善書一又曰不異文與學後而
不能肯於一也揮毫之術乃與於之
中主人為可春秋自今而後切瑣瑣
意不學之則止則他日與 皇化隆星
供進耀光榮于四方也必矣

墨翁推尾玄順併書



